



アカンサス

平成30年(2018年)
12月号
発行
能美市立辰口中学校
波佐尾 雅美

【校訓：責任 友愛 努力】

充実の2学期 大きく成長!

めざす学校・生徒像

た 楽しい学校
つ つながり合い高め合う生徒
の 伸びゆく能美市を支える生徒
く くじけずやり抜く生徒
ち かいっぱい生きる生徒

猛暑から始まった2学期も早終了です。運動会、文化祭、合唱コンクール、課題研究、新人大会等々、盛りだくさんの日々でした。忙しく、あっという間に年末になった感じがしますが、忙しいということは充実していたということ。頑張った思いや味わった満足感・充実感を3学期につなげていってください。そのためにも、冬休みを大事に過ごし「充実」させてください。

課題研究 * * * *

各学年7～8のゼミに分かれ、9月から進めてきた課題研究が終了しました。全校生徒一人ひとりが、自分の見つけた課題に対し、調べ、学び、情報を選択し、考え、まとめ、発信するという学習ができたことは、大変すばらしいことです。本校の教育目標「未来を拓く力、よりよく生きる力を育む」ための学習になりました。

12月11日には、ゼミ内発表会、学年発表会を経た代表者8名による全校発表会が開催されました。テーマは数学や科学等に関したものの、防災や空き家対策等能美市に関したものなど多彩で、大変興味深く聞くことができました。生徒からは、「発表者の”諦めずに最後まで頑張る”という言葉に感心した。」「国語などで学習した文章の組み立てで説明することで、流れがスムーズだと思った。」「身近な場所やものに疑問を持つことで、発見や発展につながると思った。」「能美市を活性化するためには様々な視点で考えることが大切だとわかった。」「これからはもっと自分の住む能美市の良いところにも悪いところにも関心を持っていかなければならないと思った。」「など、発表の仕方や内容、能美市の将来についての感想が多数あり、「たつのくち」の姿がうかがえました。

JAISTをはじめ市の職員やその道の専門家など学校外の方々にもご指導いただき、生徒もやりがいをもって学べたようです。1、2年生からは、「来年は3年生のような発表ができるようにゼミ活動をしたい。」という声もあり、来年の課題研究が楽しみになりました。

感謝いっぱいの文化祭・合唱コンクール * * * *

今年の文化祭テーマは「感謝」です。初の試みの意見発表は、2つとも人権に関するものでした。1つ目は、自分の家族の体験から、障害を持つ人に対し差別の目で見ないでほしいという意見。2つ目は、自分の行動、言動を振り返ったとき、相手を傷つけていたことに気づき、その体験からいじめは絶対にいけないと強く訴えていました。発表者の話を真剣に聞く姿に心がほっとしました。演劇「ロミオとジュリエット」は、キャストの迫真の演技と、それを支える背景画や衣装などたくさんの裏方の頑張りが一つになった素晴らしい出来栄でした。吹奏楽の演奏は楽しく、YMCAでは体育館まるごと盛り上がりました。2日目の合唱コンクールは、学級、学年の成長を感じました。どのクラスもこれまでの練習の成果を発揮し、甲乙付け難い歌声でした。文化祭フィナーレでは、全校生徒が折った感謝の紙飛行機で「ありがとう」の文字が浮かび温かい気持ちになりました。

文化祭・合唱の取組を進める中で、主体的に頑張る姿がたくさんありました。友達の頑張りを自分も頑張るといったよい連環もあり、生徒も教師も「一丸となれる辰中」を感じました。学年を超えてつながり合い、感謝や思いやりの気持ちが伝わり合った温かい文化祭でした。

日々の写真は、辰口中学校ホームページに載せてありますのでご覧ください。
http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~tatsukuj/NC2/htdocs/index.php?page_id=0

辰口中学校

検索

◇来年度の日程(例年と変更のあるもの)

●1学期終業式 7月23日(火)

●1学期始業式・入学式 4月5日(金)

●2学期始業式 8月30日(金)

※12月21日付で能美市教育委員会より文書が配付されます。

3年生の皆さんへ*集会の話より

学校の大きな行事である運動会や文化祭が大成功に終わったのは、3年生の力が大きかったからだと思っています。最上級生として、学校のリーダーとして、たいへんよく頑張り、その責任を果たしました。3年生の頑張る姿を見て、1、2年生も成長できたし、来年は自分たちもこんな風になりたい、と、2年生は思い、バトンをもらう覚悟を定めつつあると思います。

3年生の皆さんには、学校での役割は日々まだまだありますが、いよいよ、自分の人生に向かう場面が来ています。義務教育を卒業し、自分で道を選ぶ時期です。今度は、自分の人生において、責任を果たす努力をしてください。

責任を果たすというのは、高校受験に合格することではありません。15歳、中学校3年生としての役割を果たすということです。もっと具体的に言うなら、自分の進路を決定するために、しっかり自分を見つめ、勉強に向かうということ、「この時期しっかり頑張った!」という実感、「やるだけやった!」という手ごたえを持つということです。

もちろん、受験勉強もチームワーク、励まし合ったり教え合ったりが大事です。その力は、これまでの活動を通して、各学級が十分付けてきていると思います。その力を土台に、次は、一人旅です。受験勉強は、孤独で、つらいものです。でも、自分の人生に、自分の受験勉強に向き合うのは自分しかいないのです。家族も、先生も、友達も、後輩も、「がんばれ」と励ますことはできますが、向き合うのは自分なのです。

しっかり自分の人生、進路に向き合い、力を付ける努力をしてください。自分で自分を誉められるくらい頑張ったという実感を手に入れてください。それは、「たつのくち」の「ち 力いっぱい生きる姿」です。今度は、その3年生姿を見て、1、2年生は学びます。先生方も、後輩も皆、君たちを応援しています。頑張ってください。

PTA親子講演会 **** 今年度の親子講演会では、石川県立小松高等学校の小浦 寛校長先生に「学習指導要領が変わる中、今、中学生に求められる力」と題してお話いただきました。学習指導要領というのは全国どこにいても同じ教育が受けられるように定められた基準で、様々な調査による子どもの学力や社会の求めるものから、その方向性が定められ、およそ10年ごとに改定されています。中学校の新しい学習指導要領の完全実施は2021年度からですが、来年度から移行期間に入り、今、まさに、変わり目にあります。そんな中、今の中学生には、自分でしっかり考える力、本当かな?と考える批判的思考力、仲間とともに考える協働的思考力、新しいものを生み出す創造的思考力を付けるように、と小浦先生は言われました。さらに、考えるためには、頭の基礎体力が必要で、そのためには、授業や読書を大事にするとよいというアドバイスもいただきました。お話を聞いてから2ヶ月経ちますが、小浦先生のアドバイスを生かしているでしょうか。小浦先生のお話から、生徒、保護者、教員ともに、今後どんな力を付けていったらよいのかを学ぶことができました。

小浦校長先生に紹介していただいた本

- 「『働き方改革』の嘘」(久原 稔) 「頭は『本の読み方』で磨かれる」(茂木 健一郎)
- 「養老孟司 特別授業『坊ちゃん』」(養老 孟司) 「知の体力」(永田 和宏)
- 「好奇心を”天職”に変える空想教室」(植松 努) 「死ぬほど読書」(丹羽 宇一郎)
- 「AI VS 教科書が読めない子どもたち」(新井 紀子) 「負けない力」(橋本 治)
- 「未来の年表 人口減少日本でこれから起こること」(河合 雅司)
- 「『富士そば』は、なぜアルバイトにボーナスを出すのか」(丹 道夫)
- 「友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える」(菅野 仁)
- 「ぼくたちはこの国をこんな風に愛することに決めた」(高橋 源一郎)
- 「名門校『武蔵』で教える 東大合格より大事なこと」(おおた としまさ)



冬休みは本を読もう!!

辰中職員室では月に3~4回、ブックトーク(本の紹介)を行っています。先生方も「頭の基礎体力」を付けるため頑張っています。私が最近読んだ本は、『羊と鋼の森』(宮下 奈都)です。辰中図書館にあります。



